



会員企業を訪ねて

地域に根ざし「All-in-One」でニーズに応えるものづくり

株式会社メデック

記事作成

学 生 高橋 虹太, 宮坂 駿輔, 成田 竜唯 北海道科学大学 工学研究科
 広報委員 和田 直史 北海道科学大学

取材日：2025年9月10日

1. はじめに

夏の名残を感じる晴天の9月初旬、学生の高橋虹太、宮坂駿輔、成田竜唯、広報委員の和田直史の計4名で、株式会社メデックの函館本社を訪問しました。当日は、代表取締役社長の漆寄照政様、装置営業部部長の長野大輝様に、会社概要のご説明や社内の見学、インタビューなどご対応いただきました（写真1、2）。

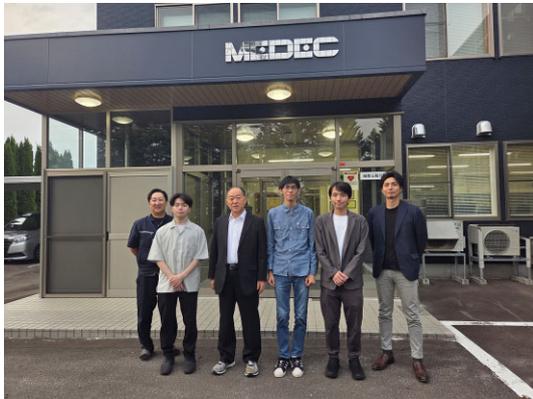


写真1 函館本社前にて集合写真

(左から長野様、高橋、漆寄社長、成田、宮坂、和田)

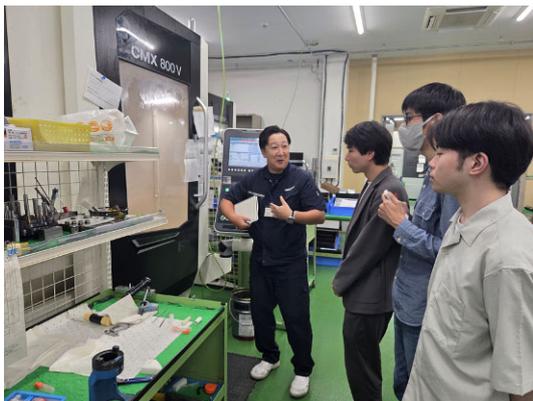


写真2 見学の様子

2. 会社概要

株式会社メデックは、1989年設立の複合エンジニアリング企業です。函館本社を中心に、千歳・山形に営業拠点を、函館・札幌・山梨に製造拠点を展開し、リスク分散と対応力の強化を図っています。また、グループ会社として、機

械部品加工の株式会社プロメック、NCデータ作成の株式会社CAMセンターを擁し、設計から製造、検査、販売、ソフトウェア開発に至る「All-in-One」体制を構築しています。

3. 事業内容

株式会社メデックは、半導体製造装置や食品加工機械などの装置設計・製造、精密部品加工、各種機器販売を柱として事業を展開しています。IC挿抜機「Vmax」は、同社が特許を取得している半導体パッケージ用着座姿勢判定装置を搭載し、国内最速の処理性能を誇る代表的な製品です。実際に見学した工場内には多数のマシニングセンタが設置され、各種部品の精密加工が行われていました（写真3左）。

また、近年では、自動化・省力化のニーズに対応するため、産業用ロボットや協働ロボットのシステム開発にも取り組んでいるとのことでした。協働ロボットは、人と同じ空間で作業できる安全性と、柵が不要であることから、省スペースでの導入が可能です。特に、中小企業においては、1台のロボットが複数の役割をこなす柔軟性が求められることから需要が高まっているそうです（写真3右）。

ソフトウェア開発も同社の強みの一つです。たとえば、生産管理アプリケーション開発を通して、クライアントの現場に合わせたシステムを提供しています。単なる機械の提供にとどまらず、運用・管理まで見据えた包括的なソリューションを実現していました。



写真3 マシニングセンタ（左）と協働ロボット（右）

特筆すべきは、メカ・電気・ソフトあらゆる専門のエンジニアを最大限に活かす技術の融合です。社内には1階に製造部門、2階に設計部門が配置されており、設計と製造が同じ建物内にあることで、迅速な情報共有と対応を実現していました。また、社内で製品を試作・テストできることも品質向上に繋がる大きな強みだと伺いました(写真4)。



写真4 作業の様子

現在はOEMからODMへのシフトも進んでおり、顧客の潜在的なニーズに応じた提案型のソリューション提供が必要になっているとのことでした。見学を通じて感じられたのは、様々な技術の融合と、現場に根ざしたものづくりの姿勢でした。最新技術のAIやデジタルツインについてもお話がありましたが、単なる技術導入ではなく、「中小企業で導入するためには、まず理解を得ることが重要」といった現実的な課題を共有していただいたことが印象に残りました。単に新しい技術を追い求めるのではなく、「どうすれば現場に本当に役立つか」という視点が、同社のものづくりの核にあると感じました。

4. 地域貢献

訪問を通じて特に印象的だったのは、地元・函館への強い思いでした。漆寄社長が函館高専の出身であることから、育ててもらった地域への恩返しとして、地域貢献を強く意識していることが伝わりました。また、漆寄社長は、函館に地酒がなかったことから、函館の食文化に合う新たな地域ブランド創出を目指して「五稜乃蔵」を設立し、「五稜」という地酒づくりを始めたそうです(写真5)。企業活動が単なる経済活動に留まらず、地域文化の創造や活性化にまで寄与する多角的な視点であることを学びました。



写真5 函館の地酒「五稜」
(写真は五稜乃蔵 HP より)

5. 学生・若手エンジニアへのメッセージ

エンジニアとして成長するには、年齢に関係なく学び続ける姿勢と、現場で試行錯誤を繰り返す経験が大切であると長野様はお話しされていました。ルーティン業務にとどまらず、常に課題を発見し、改善策を考え、実行する力が求められるとのことでした。また、使う人の立場でニーズを理解し、喜ばれるものを創造する「理解力」「思考力」「構想力」が不可欠であり、そのためにも現場を自分の目で見る「現地現物」の重要性を強調されていました。英語力やアルゴリズム的思考も、今後の技術者に求められる基礎的な素養だと伺いました。

株式会社メデックには「大局着眼」という社是があります。この言葉には、広く全体を見通して物事の本質を捉えることの重要性が込められています。この広い視野こそ、多岐にわたる事業を展開し、顧客の真のニーズに応えようとする同社の姿勢を形作っているのだと感じました。

6. おわりに

今回の訪問では、「All-in-One」による一貫体制と技術力の融合、そして地域とのつながりを大切にする姿勢に触れ、函館から全国・海外へと価値を提供する企業の姿を学ぶことができました。株式会社メデックの事業は、単なる製品開発にとどまらず、顧客の課題解決と地域社会への貢献という視点をあわせ持っており、これからのものづくり企業の在り方を示しているように感じました。

最後に、お忙しい中、取材に快くご協力いただきました漆寄社長、長野様をはじめ、ご対応いただいた株式会社メデックの皆様にご心より感謝申し上げます。